

## 2022 年度イフパット年次総会議事録

日時： 2022 年 5 月 27 日（金）14:00～15:45、於：イフパット事務所および ZOOM 会議  
出席者：理事：櫻井文海、西村美彦、永井和夫、大塚寛治、監事：岩崎薫、議長：狩野良昭  
事務局：美馬巨人、山岸ひろみ、 会員：浅野哲  
ZOOM 参加：理事：和田彩矢子、会員：斎藤英毅、石井潔、小林沙羅、錦織紀子  
表決票の提出：19 名 ZOOM 総会出席者：14 名 合計：33 名  
（正会員総数は 43 名であり、3 分の 1 以上の出席と認められ、定款 27 条により  
総会は成立。）

### 表決票集計結果（回収数 19）

I. 2021 年度事業報告（1 号議案）	賛成：19 反対：0 棄権：0
II. 2021 年度決算（2 号議案）	賛成：19 反対：0 棄権：0
III. 2022 年度事業計画（3 号議案）	賛成：18 反対：0 棄権：1
IV. 2022 年度予算案（4 号議案）	賛成：19 反対：0 棄権：0
V. 理事・監事改選（5 号議案）	賛成：18 反対：0 棄権：1

### 審議内容：

- ① 櫻井会長の開会挨拶の後、議長に狩野会員、書記は事務局、議事録署名人に永井会員と櫻井会員を選任して議事を進めた。
- ② 2021 年度事業報告（1 号議案）および 2021 年度決算報告（2 号議案）を総会資料により報告した。

2021 年度はコロナ禍が継続する中、JICA 研修事業は引き続き遠隔研修での実施となり、草の根事業も開始となったが、現地活動が難しい中リモートでの活動が中心で全面的な活動にはならなかった。研修事業に関しては、当初予定されていた 6 件の研修コースの他 2 件の青年研修が実施され、研修事業収益は 25%程度増加した。しかし、草の根事業の収益は計画の 15%程度に留まり、全体としては計画の 80%程度の事業収益となった。また、法定福利費（社会保険負担）の対象者の減等により計画の 65%程度に抑えられたこと等により、当期正味財産増減額は 2,105 千円の黒字に収まる事が出来た。

③ 岩崎監事から事業と経理合わせて監事報告がされた。

総会資料4月21日付「監査報告書」のとおり、昨年度の会計と業務について適正であることを確認した。補足として、コロナ禍の状況下で黒字を確保できたのは、それなりの理由があり、単なる事務的対応では、これは実現していないと考える。

(会計)については、受託事業による収益が回復しないことから、少しでも支出を抑えようと努めていることが随所に認められる。(案件採択契約前の現地調査費用の事業費扱いやIFPaT便りの外注化等)

(業務)については、以下3点を評価する。

(1) 青年招聘(2件で600万円)他積極的事業契約の取り込みやリモート研修で効果を発揮する新規ビデオ教材の作製など、理事や担当者の前向きな姿勢と実行力を評価。とりわけ、青年招聘に限らず、事業実施に必須の会計業務に携わった言わば裏方の方々の努力と貢献は言及に値するものとして評価する。

(2) インターンの受入と指導：IFPaT便り第29号(2022年1月)の記事からも、受け入れ側の熱意や体験者の学びの質の高さが伝わり、受け入れに関係した方々の姿勢、努力、実行力と当該活動の成果を評価=収益はなくとも、若手人材の育成にとどまらず、IFPaT組織への信頼度の向上に繋がる、お金では買うことができない、大きな組織資産となるものとする。

(3) コロナ禍での効果的なオンライン研修の実施に関係者が努めたことを評価する。その上で、ポストコロナのJICA事業受託を念頭に、IFPaTが実施したオンライン研修の弱点を補強するFU調査やFU現地研修の提案をJICAに行うことも一案と考える。

最後に、会員の高齢化が、今後の会員数の減少や活動の伸び悩みに影響していくことが懸念される。組織活動の更なる発展を目指して、IFPaT第二世代体制の構築を進める時期にある。その為にも、現活動を弱体化することが無いように配慮しながら、ジェンダーバランスや世代バランスを意識した会員構成と役員構成を念頭に、若い世代を会員に取り込んで、会員全員参加で力を合わせて、徐々にでもIFPaT第二世代を造りあげることが望ましいと考える。

④ 2021年度事業報告(1号議案)および2021年度決算報告(2号議案)については賛成多数で承認された。

⑤ 2021年度事業計画(3号議案)および2021年度予算案(4号議案)を総会資料により報告した。

2022年度事業計画について:本年度も、コロナ禍の影響は大きく残ると予想されるが、経常収益については72,238千円(2021年度は48,000千円)と計画している。これに対し、経常経費は、67,295千円程度(2021年度は46,000千円)を予定しており、法人税を控除し、当期正味財産増減額は4,384千円程度の黒字を想定している。

- 1) 研修コースの受託：本年度は、昨年度と同じく5~7コースの研修を予定している。
- 2) 草の根事業：ベトナムとエルサルバドルの草の根事業についても、現地の状況が改善すれば、それぞれ15,000千円程度の活動を予定したい。

⑥ 2021年度事業計画（3号議案）および2021年度予算案（4号議案）については賛成多数で承認された。

⑦ 理事・監事の改選については、理事は現職の再任とし、監事は狩野良昭氏とする（5号議案）を賛成多数で承認された。

⑧ 質疑応答

（質）年会費の徴収が会員数に比して少ないが、督促等はしているか。

（回）督促等は鋭意行っているが、連絡のつかなくなった会員もいて十分な対応が取れていない。

（質）インターン生に自主事業として、現地活動現場に派遣できるような取り組みを是非進めてほしい。

（質）若手人材の活用や自主事業の強化について、会員の意見を聞きたい。

（回）研修員のアクションプランのフォローに、JICA予算あるいは事務所予算を活用すれば比較的比較的簡単に実施できると思われる。

（回）カンボジア青年研修・アグリツーリズムでは、シムリアップ自然公園の活動等のアイデアが出ていたが、自主事業として考えていくのが良いと思われる。

（回）数年以上継続できる事業があれば若手人材の雇用も可能だが、アドホックな事業では難しいと思われる。

（質）イフパットホームページのフェイスブックの現状と課題について。

（回）生活改善・栄養改善研修の活動の広報として使っているが、研修が終われば記事が停滞する。インターン生にも手伝ってもらってアップしているが、今後はイフパットの活動全般の報告として活用するのが良いと思われる。

⑨ 議長解任

⑩ 閉会

以上

2022年6月18日

議長：狩野 良昭

議事録署名人：永井 和夫

議事録署名人：櫻井 文海

上記は、特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク 2022年度年次総会議事録の謄本であることを証明する。

特定非営利活動法人国際農民参加型技術ネットワーク

代表者氏名：櫻井 文海